

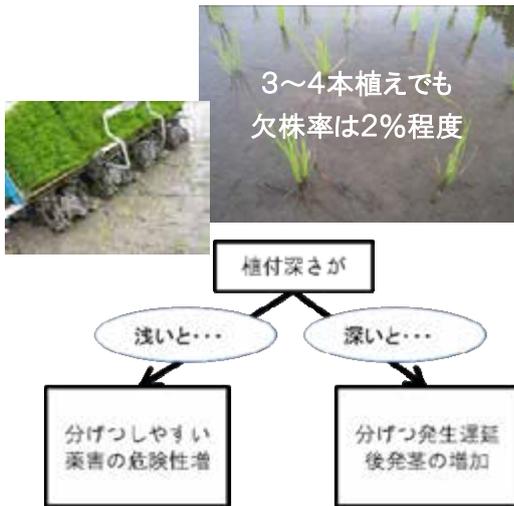
田植えと基肥

★適期田植と疎植による品質向上対策★

田植えは必要とする株数を確保し、初期生育を安定させ、分けつが確保しやすい条件を作ることが大切です。降霜の危険性が高いうちは植えないようにしましょう。

また近年は水稻の生育期間中の気温が高く、生育が早まる傾向が強くなっています。出穂期が高温時期と重なることによる白未熟粒等の品質低下を防止するため適期田植を遵守しましょう。

品種	地域	適期田植日
ハナエチゼン	全域	5月1日
日本晴	山間地	5月1日
	平坦地	5月9日
コシヒカリ あきさかり	山間地	5月15日
	平坦地	5月22日



田植え時には栽培密度や植付本数、苗の植付深さに注意しましょう。植付本数は1株当たり3~4本で細植えし、太くしっかりとした茎を作りましょう。植付本数が多い稲は分けつが多くなり株は立派に見えますが、1本の茎が細く穂が小さくなりやすくなる上に、目に見えて倒伏しやすくなります。

植付深さは根の発生位置が土中深さ3cm程度となっているかを目安としましょう。右記のようにそれぞれのメリット・デメリットがありますので、目標値から大きく外れている場合は田植え機を調整しましょう。

★基肥量★

主な肥料標準基肥量

品種名	ハナエチゼン	日本晴	省農薬 あきさかり
資材名	ハナエチゼン044	日本晴588	HG有機666
荷姿			
施肥量	35kg/10a	40kg/10a	60kg/10a

品種名	コシヒカリ エコファーマー	特裁認証③ コシヒカリ	特裁認証④ コシヒカリ
資材名	エココシヒカリ886	HG有機666	特裁コシー発297
荷姿			
施肥量	40kg/10a	60kg/10a	60kg/10a

基肥の量が過剰になると病虫害の発生や倒伏の危険性が増加し、不足すると葉色が淡く、生育量が小さくなります。地力を考慮した上で、上記標準基肥量を参考に施肥しましょう。また肥料によって比重も若干

違いますので、施肥開度表(かがやき 3 月号掲載)を今一度ご確認の上、作業を開始しましょう。

除草剤散布と水管理

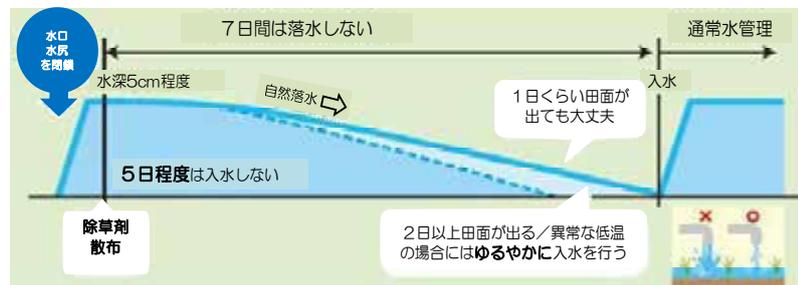
★効果的な除草剤散布★

1. 代かきは丁寧に、あぜの管理は確実に

- ・田面の凹凸がなくなり均平になるように、耕起・代かきは丁寧に行いましょう。
- ・漏水しやすい場合は、畦塗りするか、あぜ波板やシートで補強しましょう。

2. 水管理をしっかりと

- ・水口・水尻をしっかりと止めて、5cm 程度の水深を確保しましょう。
- ・除草剤散布後7日間は落水・かけ流しをせず、入水もできる限り控えましょう。
- ・入水が必要な場合は、ゆるやかに入水しましょう。
- ・初中期一発除草剤の抑草効果は概ね 30～40 日間ありますが、漏水等で田面が露出すると処理層の分解が早まり抑草期間が短くなるので注意しましょう。



3. 適期に散布

- ・雑草葉齢に合わせて処理適期に散布しましょう。
- ・表層剥離やアオミドロが発生する前に散布しましょう。(特にジャンボ剤・フロアブル剤)

4. 雑草が多い圃場では体系処理がおすすめ

- ・毎年雑草が問題となる圃場や、代かきから田植えまでの期間が長くなる場合は
初期剤 + 一発処理剤 や 一発処理剤 + 後期剤 の体系処理を行いましょう。

5. ジャンボ剤、フロアブル剤のポイント

- ・薬がうまく拡がるように、水をたっぷり張りましょう(水深 5～7cm)
- ・表層剥離、アオミドロが発生した場合は、雨上がりなどに藻が落ち着いてから散布しましょう。
- ・水田の水が偏るほどの強風が予想される場合は散布を避けましょう。

★水管理★

田植え直後、苗が活着するまでは、苗の葉先が少し見えるくらいの深水(3～4cm)を維持して苗を保護しましょう。新しい葉が生えたら、活着し始めているため、2～3cm 程度の浅水管理にて水温や地温の上昇を図り、分けつを促進させ茎数の確保に努めましょう。

★田干し★

基肥をしっかり入れたはずなのに葉色が薄い場合や葉の先が黄色くなっている場合は、土の中にガスが溜まっていることにより根の伸長が阻害されていることが考えられます。葉色が薄い場合でもむやみに追肥せずに、軽い田干し(1～2 日間落水)を行いましょう。ガスが抜けると根に酸素が供給され、根が地中深く伸びるようになります。

また活着後の深水管理は、水温の上昇を遅くするため分けつが遅れ、軟弱徒長を招くため注意しましょう。

